

〈寄贈資料紹介〉

『古稀記念師友翰墨帖 第一・七輯・目録』

八冊

本資料は、明治四十一年の推選校友小久江成一家の古稀を記念して作成された書画帖である。一昨年末、ある館員とのコース仲間御縁で、曾孫に当たる御当主栄一氏から受贈の運びとなった。共に寄贈賜った全十二点の資料には、家伝の書幅や、亡命中の梁啓超の墨跡、小久江の耳順を記念した平沼淑郎の書幅、古稀を記念した坪内逍遙の書幅等が含まれる。

小久江成一家は、本号掲載の「翻刻『春城日誌』二九」にもその名が見えるが、東京専門学校で小野梓に学んだと言われている。明治二十三年の第一回衆議院議員総選挙における高田早苗の立候補を機にその知遇を得、高田・市島の腹心として、講義録の出版事業等に手腕を振い、やがて、早稲田大学出版部の役員となり、後に日清印刷の常務取締役になった人物である。

この豪華な画帖仕立ての翰墨帖に揮毫する面々は、高田、市島を初めとする大学関係者や講義録執筆者ばかりとより、菊池寛、西條八十、初代水谷八重子等も加わっており、延べ二百七十名以上に及ぶ。まさに圧巻である。小久江の人柄が偲べると共に、本学への貢献と深い結び付きが窺える資料であり、今後、責任を持って、永く後世に伝えて行きたい。

(小林邦久)



編集後記

新中央図書館は、今年開館二十五周年の節目を迎えようとしている。この間、図書館業務も様変わりし、また、多くの先輩達を見送つて来た。同僚の顔ぶれが変わる中、新たな業務を拓くべく奮闘する若手館員の姿を心強く思うと共に、一抹の寂しさを感じるのもまた、偽らざるところである。

分けても、現役時代から長きに亘り、春城日誌研究会の中心として、読解・翻刻の成果発表に力を尽くされた金子宏二氏が逝去されたことは、誠に残念でならない。この場を借

りて、金子氏のご冥福をお祈りする。

「翻刻『春城日誌』」は、一九八六年の二十六号に第一回の明治三十五年部分を掲載して以来、本号の第二九回まで、関連資料の翻刻紹介を交えて、殆ど毎号のように誌面を飾つて来た。

一昨年夏、そろそろ一冊に纏めたい旨、ご相談を受けていたところであったが、昨今の出版事情下、その実現は困難であろう。せめて、二十九回分と関連成果のすべてを早稲田大学リポジトリに掲載し、広く公開することにより、その遺志の一端にでも沿うことが出来ればと考えている。

(小林記)

図書館紀要編集委員会

小林邦久(資料管理課長)

寫田修(資料管理課)

長谷川敦史(総務課)

松尾亜子(資料管理課)

馬淵敬子(資料管理課)

早稲田大学図書館紀要 第63号

二〇一六年三月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要

発行人 莊司雅之

印刷所 三美印刷株式會社

発行所 早稲田大学図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一

〇三(三三〇三)四一四一